

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| ① 国語A | 111人 | 国語B | 111人 |
| ② 数学A | 111人 | 数学B | 111人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・全国・栃木県と比べ、国語の授業で学習したことは将来役に立つと考え、国語の勉強は大切だと考えている生徒が多い。
- ・A Bともにどの領域も、正答率が全国・宇都宮市より高い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	4	79.3	79.2	77.6
	書くこと	4	71.8	67.1	64.5
	読むこと	6	83.9	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	18	79.9	78.2	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	79.3	79.2	77.6
	書く能力	4	71.8	67.1	64.5
	読む能力	6	83.9	82.3	80.0
	言語についての知識・理解・ 技能	18	79.9	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	80.2	79.2	77.3
	短答式	11	78.5	74.9	74.7
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	72.1	63.3	62.7
	読むこと	8	72.2	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	1	78.4	63.0	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	72.1	63.3	62.7
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	72.1	63.3	62.7
	読む能力	8	72.2	69.9	67.8
	言語についての知識・理解・ 技能	1	78.4	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	71.5	70.4	68.2
	短答式	1	82.0	80.9	77.5
	記述式	3	72.1	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【書くこと】

○A 宇都宮市より 3.3 ポイント、全国より 7.3 ポイント高い。

○B 宇都宮市より 8.8 ポイント、全国より 9.4 ポイント高い。

【読むこと】

○B 宇都宮市より 2.3 ポイント、全国より 4.4 ポイント高い。

→● 情報を関連させて読む設問について、全国より 1.7 ポイント低い。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

○A 宇都宮市より 1.7 ポイント、全国より 2.4 ポイント高い。

→● 敬語の働きについて理解する設問について、全国より 0.4 ポイント、栃木県より 2.9 ポイント低い。

○B 宇都宮市より 15.4 ポイント、全国より 13.8 ポイント高い。

【その他】

○B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率が宇都宮市より 8.8 ポイント、全国より 9.4 ポイント高い。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

○およそ 90%の生徒が国語の勉強は大切と思い、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考えている。また、64.3%の生徒が国語の勉強が好きで、76.8%の生徒が国語の内容がよくわかると答えている。

○読書が好きな生徒は 81.3%で、栃木県より 5.1 ポイント、全国より 11.2 ポイント高い。

●授業中の中で分からないことがあったらどうするかという設問で、そのままにしておくが 9.8%あり、栃木県より 2.7 ポイント、全国より 0.9 ポイント多い。

指導改善のポイント

【読むこと】

- ・図表などの非連続型テキストと対照させながら、文章を読む学習活動を取り入れていく。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・実生活において、どのように敬語を運用するべきかを考えさせる学習活動を取り入れていく。

【その他】

- ・授業中に質問しやすい雰囲気となるよう配慮する。

2 数学

全体的な傾向

- ・全国・栃木県と比べ、数学の勉強が好きで、数学の勉強は大切だと考えている生徒が多い。
- ・A Bともに、数と式・関数・資料の活用での正答率が全国・宇都宮市より高い。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本市	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	76.0	73.5	72.7
	図形	12	69.7	66.4	64.6
	関数	9	66.1	60.0	58.7
	資料の活用	4	56.8	48.3	46.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	72.7	68.7	67.9
	数量や図形などについての 知識・理解	19	66.3	61.6	59.8
問題形式	選択式	18	68.9	63.6	61.8
	短答式	18	69.7	66.3	65.5
	記述式	0			

【数学B】

分 類	区 分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本市	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	45.6	43.0	41.7
	図形	2	44.1	45.1	44.8
	関数	6	46.2	40.1	40.0
	資料の活用	3	50.8	43.8	42.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	38.8	35.0	34.8
	数学的な技能	2	58.6	55.7	53.1
	数量や図形などについての 知識・理解	2	81.5	72.8	70.7
問題形式	選択式	4	43.0	43.2	43.3
	短答式	5	62.7	57.8	55.8
	記述式	7	37.2	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と式】

- A 宇都宮市より 3.3 ポイント、全国より 7.3 ポイント高い。
→● () を含む正・負の数の計算の設問について、全国より 9.1 ポイント低い。

【図形】

- A 宇都宮市より 3.3 ポイント、全国より 5.1 ポイント高い。
●B 宇都宮市より 1 ポイント、全国より 0.7 ポイント低い。
→● 証明の方針をたてる設問で、全国より 7.6 ポイント低い。
○ 方針に基づいて証明する設問で、全国より 6.3 ポイント高い。

【関数】

- A 宇都宮市より 6.1 ポイント、全国より 7.4 ポイント高い。
○B 宇都宮市より 6.1 ポイント、全国より 6.2 ポイント高い。

【資料の活用】

- B 宇都宮市より 7 ポイント、全国より 8.6 ポイント高い。

【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率が宇都宮市より 6.4 ポイント、全国より 6.9 ポイント高い。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 80%以上の生徒が、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考え、数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える生徒は 58.1%で、栃木県より 15 ポイント、全国より 20.4 ポイント高い。
○およそ 95%の生徒が、数学ができるようになりたいと思い、73.2%の生徒が数学の授業がわかると答えており、全国より 2.7 ポイント高い。
→●26.8%の生徒が数学の授業の内容がよくわからないと答えている。

指導改善のポイント

【数と式】

- 基本的な計算の確実な定着を図るため、反復練習の充実を図るとともに、誤りのある計算例を取り上げ、よく見られるつまづきの解消を目指した活動の充実を図る。

【図形】

- 証明の方針をたてればそれに基づいて証明できる生徒が多いことから、方針を立てる活動の充実を図る。そのために、仮定を図にしるしを付け、図を見ながら結論を導くには何が言えればよいのか考える活動や、一つの証明過程を見直し、着目する図形を変えて新たな証明方針をたてる活動を取り入れる。

【その他】

- T・Tの授業を有効に利用した個別指導や、生徒同士の学び合いの授業を有効に取り入れ、生徒の理解が深まるよう工夫する。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

- 毎日同じくらいの時間に起きたり、朝食を食べたりしている生徒が95%を超えている。
- 将来の夢や目標については、実現のために努力していると答えた生徒は78.5%で、74.1%の生徒が将来になりたい職業があると答えている。
- 対人関係では、95%を超える生徒が、一人一人の人間には考えや性格などに違いがあるということを大切に、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると答えている。
- 本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行くかという設問で、ほとんどまたは全く行かないという生徒の割合は31.3%で、栃木県より23.3ポイント、全国より26.7ポイント低く、学校図書館や地域の図書館を利用している生徒が多い。